

タチヤナギ

Salix subfragilis

ヤナギ科



タチヤナギ

名前の由来

「タチヤナギ（立柳）」は木の姿がまっすぐに立ち上がって見えるからだという。「ヤナギ」は①古く中国で矢をつくったことから、ヤノキの転。②成長しやすいため、イヤナガ（彌長）の略。③梁をつくったことから、ヤナ木。④柔荑木（やわなぎ）の意。などといわれている。
漢字名：立柳

形態的特徴

樹高5～10m。葉は長楕円状披針形で長さ5～15cm、細鋸歯縁、裏面やや粉白色、主脈が裏に著しく隆起。若葉は褐色を帯びる。雌雄異株。花は雄花序は長さ2～6cm、葯は黄色で雄しべが3個、雌花序は淡緑色、長さ2～5cm、5月開花。果実は果序は長さ4～7cm、6月に成熟。

類似種との見分け方：タチヤナギの葉は両面とも無毛、縁が巻き込まず、主脈が裏に著しく隆起する。エゾヤナギとは托葉が遅くまで残らないこと、若葉が褐色を帯びること、開花時期が遅いことなどで区別できる。ケショウヤナギとは、冬芽の形が長楕円形でやや扁平していることが違う。



タチヤナギの雄花



タチヤナギの雌花



タチヤナギの実が開き綿毛に包まれた種が見える



タチヤナギの葉



タチヤナギの樹形



タチヤナギの樹皮。薄くはがれる



タチヤナギの冬芽



タチヤナギの葉。主脈が盛り上がり、細かいギザギザがあり、両面無毛

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■										
結実期			■									

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(葦原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

日当たりのよい湿地や河岸に生える

分布：国外分布は、朝鮮、中国東北部、樺太など。国内分布は、北海道、本州、四国、九州。北海道内分布は、道内

広くに分布。

十勝地方生育状況は、日当たりのよい湿地や河岸。

繁殖生態・寿命

5月開花。果実は果序の長さ4~7cm、6月に成熟。ヤナギ類の種子には無数の長毛がつき、風散布される。その距

離は数100mから数10kmにまで達するという。寿命は〈小高木~低木類のヤナギで〉20~30年?

他生物との関わり

コムラサキの幼虫の食樹となる。

《ヤナギ一般》ヤナギ類は新条（その年に出了枝）が伸びるにつれ新しい大きめの葉を先に付けるが、早くから出了葉は順番に落ちていく。これによって長期に渡り水生昆虫に餌を供給でき、魚を養うことができる。



コムラサキ。幼虫時、タチヤナギなどのヤナギ類を食樹とする

植栽関係

枝挿し増殖によって増殖でき、挿し木（埋枝）も有効である。河畔林では大型のヤナギ類に圧倒されるが、耐浸水性に富むため、浸水河畔林や水没湖畔林に向く。

一般的にヤナギの挿し木には、直径1~3cm（枝齢2~5年生）でまっすぐなものが良く、長さ30cmが基準となる。

無理矢理打ち込まず、案内棒などで穴を開けて、斜めに埋めることが望ましい。上下間違わないようにすることも大切である。

埋枝時期は落葉後の晩秋、発葉前の早春までが適当。なおクロボク土といわれる黒土を客土してはならないという。

興味深い話

■護岸用、図板などに用いられる。

■水中に長く根を伸ばし（水中根）本来の根の代用をすることができるため、成長期の浸水状態によく耐える。ほぼ100日間の光合成ができるなら、休眠期間中の完全な冠水（水没、湖水下、ただし水温4℃以下）にもよく耐えるという。また水中の不定根は海のマングローブのように、「水中の魚付林」の役割を演じるとも言われる。

■《ヤナギ一般について》多くのヤナギ類は挿し木に向いていて、「さし木にも風はそよぎて柳かな」（里童）という俳句があるほどである。『万葉集名物考』（著者、刊行年代不明『日本文学古註釈大成』に収録）には「柳は枝を折て地上にさしおけば生ひやすく根植はかへりて育たぬもの也」とあって、挿し木の場合は根付きやすいが、移植は育ちにくいことを示している。しかし一般的にヤナギ類は、移植には強いと言われ、相当大きな木でも発葉前の適期に

移動し、枝をかなり剪定するとより良く活着するという。

■ヤナギは全体として早熟性であり、発芽後10年ほどで種子散布をおこなう。また風散布によって種子が遠距離まで分散するため、その生育域を短期間に広げる可能性を持ち、「速足の旅人（クイックトラベラー）」と呼ばれるという。



タチヤナギ

配慮事項

特になし。

参考文献

「改訂増補 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989
「山溪カラー名鑑 日本の樹木」林弥栄 編 山と溪谷社
「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990
「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992
「樹木大図鑑」高橋秀男監修 北隆館 1991
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅

麗 編集 柏書房 1996

「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978

「ヤナギ類 その見分け方と使い方」斎藤新一郎（社）北海道治山協会 2001

「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 監修 北海道林業普及協会 1996

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

魚類

底生動物

爬虫類
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ